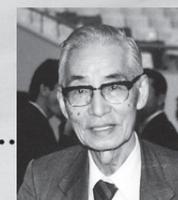


トイレ博士 西岡秀雄先生の文献から学ぶトイレ文化

西岡秀雄先生 プロフィール】
 ●日本トイレ協会初代会長・名誉会長
 ●慶応義塾大学名誉教授
 ●大田区立郷土博物館元館長



このコーナーでは、トイレ博士 西岡秀雄先生が遺された文献の中から、トイレ文化に関する興味深い内容を、皆さまにご紹介するものです。

第2回 【紙を使う人たち】世界トイレ事情 (1986.8.27)より抜粋

紙を使うのは世界の1/3の人たち

前回【世界の3分の2の人たちは】ということで、トイレで紙を使わないで処理する人々を紹介しましたが、今回は残りの3分の1の人々が使っている、紙の種類についてご紹介しましょう。

まず、日本人が良質だと思っている紙を作れる国は現在5カ国と申しあげて良いでしょう。日本、アメリカ、フランス、中国、それからドイツを、イタリアよりは良いだろうということで5番目にしています。なぜかというと、まだ吸湿性があまり良くないのです。

適度の吸湿性と強じん性、そして水にとけやすい性質が必要なため、なかなか普通の国では良質のトイレトーパーは作れないのです。

ドイツ・イギリス・フランス

ドイツは政治的には東西ちがうのですが、トイレトーパーはどちらも質実剛健というか、ひどい灰色の紙が使われています。新聞の活字が見えるような再生紙です。

私が、あまりテレビで悪口を言うものですから、最近のドイツ雑誌などで、良質の紙が作れると宣伝していますが、実物をみますと、水滴が紙表で丸まるような状態の紙です。

色についても、オーストラリア、スイスはピンクでも良いのですが、イギリス人はページにしないと受けな

ようです。

しかもイギリスの場合、男も女も、トイレトーパーをメモ用紙がわりに、丸ごとではないまでも持って行ってしまふ人が多いのです。それではたまらないので、どこから持って来た紙かわかるように、会社名や学校名をミシン目ごとに印刷しているのです。



▲イギリス製 (キングスカレッジ用)

実は、私がトイレトーパーのコレクションを始めたのは、パリからなんです。ご承知のようにパリといえばファッションの中心地ですから、私は、トイレトーパーも白く、柔かい良質のものだと思っていたのです。先入感でものをみるのは良くないことです。

私が学生と泊ったのは、二流のホテルでしたが、白くないのです。しかも、いくらもんでもパリパリして使えない。いくらパリだからと言ってそんなバカなと思い、超一流のホテルのトイレに翌日行ってみました、やはり同じ紙を使っています。

3日目にベルサイユ宮殿の観光客用のトイレではなく、高位高官用のトイレを拝見させてもらいましたが、どこよりも茶色い紙を使っておりました。

フランスの話で、こんなふざけたトーパーがあります。トイレトーパーにお札が印刷してあり、真ん中に金権政治で非常にきらわれているある政治家が漫画で印刷されており、ヤクザ銀行と悪口が書いてあるのです。

日本ではここまでやられる政治家はまだいないようですが、フランスはこ

こまできています。



▲フランスヤクザ銀行と書かれている

ソビエト・タイ

次はソビエトです。ソビエト本土へ入りますと、正方形の紙になります。女性用も、色がちょっとピンクになっているだけで材質は同じでした。正方形なので折紙のかわりになるほどです。

最近のキエフ空港の物は少し漂白されましたが、相変らず吸湿性のない紙です。モスクワの部屋数6,000をほこるロシアホテルでも、灰色のかなりひどい紙を使っています。

次はタイの紙です。タイでは未婚の女性は、パヌン(スカート)の色が生まれ曜日で決まっています。日曜が赤、月曜日が黄色、火曜日がピンク、水曜日がグリーン、木曜日がオレンジ、土曜日が紫となっているのです。結婚する相手が曜日によって決められているので、例えば日曜生まれの人は木曜生まれとなら結婚が許されるのです。

私の勤めていたチュラルンコン大学は、タイ国立の最高の大学なのですが、その大学の表紙は全部ピンク、トイレの紙までみんなピンクでした。この大学の名になっているチュラルンコン王が、火曜生まれなので全部ピンクなのです。

日本の通産省のように、白色度

60%で、白くなければいけないと考えると、少なくともタイでは売れないでしょう。

印刷トイレトーパー

今、おもしろいのは、アメリカがヨーロッパに輸出しております色付きのトイレトーパーです。バラの花や蝶や熱帯魚等が印刷してあるのです。

ところが、ヨーロッパ人から言うと、やはりアメリカ人はセンスがない、どうも心くばりが足りないと言うのです。美しいバラの花を印刷しても、美しいだけにそれを汚しては、かわいそうだと言うんです。人間側から見てもバラではトゲがささりそうな気もするし、どうもアメリカ人は無神経だと言うのです。そうやってアメリカ人をバカにします。

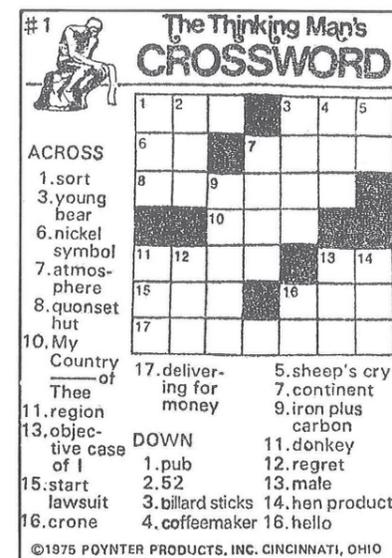
先程のイギリスのトイレトーパー(印刷したもの)を持って帰って来て、東京のあるロータリークラブで卓話をたのまれた時、日本の会社には、トイレトーパーに広告を印刷することはないという固定概念があるという話をしたところ、2~3カ月して入学試験に出る英単語をシリーズ別に印刷したトイレトーパーがおくられてきました。

絵入りで入っていますので、65mでは全部入りきらないため、4巻1セットになっており、野菜シリーズ、昆虫シリーズ等あるのです。

一度印刷することを覚えると、日本人は何でもやるので、今、京都以西では、5~6社の会社が一緒になって広告まで出すのです。面白いことに、関西では流行するようですが、関東ではやらないのは県民性でしょうか。

この印刷会社では、アメリカ向けに、クロスワードの紙を出しています。日

本の紙ですから、万年筆ではにじんでうまく書けません。そこで、ロールの中央の穴にちょうど入る鉛筆と模範解答用紙までセットして、なくさないように鍵までつけて、壁につけるようになっているのです。しかも包装紙にはロダンの絵まで書いてあり、オハイオ州のシンシナティで売っています。また、雑学が印刷されたものもあります。トイレの中で、ゆっくり雑学を学ぶ訳です。女性の美容体操は何カロリーであるとか、いろいろなことが書いてあります。



▲日本製(静岡県・藤枝製紙(株))アメリカ向けのトイレトーパー

日本の紙の消費を抑えるには

私は、なるべく紙の消費量をおさえるという視点から、なぜ通産省がトイレトーパーの幅を115mmに決められたか調べてみました。

よく調べますと、終戦後、米軍が日本に入ってきたとき、ロールペーパーを持ちこみ、これと同じ物を作れと言われ、それが軍から一般にも横流しされ現在に到ったのです。ですから115mmでなければならぬ理由はありません。

頭をきり変えて、手に持つから幅が

必要なだから、持たないでふくことはできないか、と考えてみましょう。例えば、映画のフィルムの巻き取り器のような装置があり、それにまたがるようにすれば、男性も女性も立派に用がたせます。それですと幅は、船から投げるテープ程度で十分でしょう。あとは自分の好みのスピードで楽しく回せば良いと思います。

TOTOやINAXに開発をお願いしているのは、ウォッシュレットと申しまして、下から出るお湯で洗浄するものです。使われた方は、手離せなくなるぐらい、気持ちの良いものらしいですし、これなら紙は必要ないでしょう。

トイレで敗れた日本軍

以前、「トイレ戦争」という文を依頼されて少し調べたことがあります。

ガダルカナルで日本が負けた原因は、トイレだったんです。つまり、ガダルカナルに日本軍が上陸の際、米軍はスパイを放って日本軍の人数を調べさせたのです。日本軍は伝染病を防ぐためトイレを1カ所に決めていました。スパイはその糞尿の量で人数を知ろうとしたのです。

アメリカ軍は1人当りの糞尿の量を100gとして計算しましたが、当時、日本人は400gの糞をしていたので、実際の人数の4倍も人数が報告されたのです。アメリカはそれよりも倍の人数を、結果的には8倍も的人员をガダルカナルに投入したので、日本は負けてしまったという次第です。人種と食物によって、糞尿の量や回数など、ずい分と違うものなのです。

このようにトイレというものを、まわりからおさえていくと、いろいろな面白いことがわかる訳です。